

平成29年度

入学者選抜要項



北海道公立大学法人

札幌医科大学

医学部・保健医療学部

目 次

建学の精神・理念・アドミッションポリシー	1
----------------------	---

I 募集人員・日程等	3
------------	---

1 募集人員	3
2 日程	3
3 学生募集要項の配布日	3

II 医学部 医学科 出願資格・選抜方法等	4
-----------------------	---

1 一般入試	4
2 推薦入試	8

III 保健医療学部 看護学科 出願資格・選抜方法等	12
----------------------------	----

1 一般入試	12
2 推薦入試	15

IV 保健医療学部 理学療法学科・作業療法学科 出願資格・選抜方法等	17
------------------------------------	----

1 一般入試	17
2 推薦入試	21

V 学生募集要項の請求先及び請求方法	23
--------------------	----

VI 私費外国人留学生入試	25
---------------	----

建学の精神・理念・アドミッションポリシー

北海道が設立した北海道公立大学法人 札幌医科大学は、北海道の地域医療に貢献する医療人（医師・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士）を育成するという北海道民の強い要請に応え、次のとおり建学の精神及び理念を掲げています。

【建学の精神】

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

【理 念】

人間性豊かな医療人の育成に努めます
道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
国際的・先端的な研究を進めます

上記の建学の精神及び理念に基づく各学部のアドミッションポリシー（入学者受入方針）は、次のとおりです。

【アドミッションポリシー】

札幌医科大学は、北海道立女子医学専門学校を前身に、昭和25年（1950）に医学部医学科の単科大学として開学しました。また、昭和58年（1983）に開学した札幌医科大学衛生短期大学部を、平成5年（1993）に看護学科、理学療法学科及び作業療法学科を擁する保健医療学部に発展的に改組し、北海道立の医系総合大学となりました。

平成19年（2007）からは、北海道が設立した公立大学法人として、北海道の地域医療に貢献する医療人（医師、看護師・保健師、理学療法士、作業療法士）を育成するという北海道民の強い要請に応えています。建学時からのスピリットである「進取の精神と自由闊達な気風」が、医学・医療の攻究と地域医療貢献を実現する礎となっています。

北海道民の健康と医療を守り、豊かな人間性を持つ医療人を育てるとともに、国際的・先端的の研究を進めるために、札幌医科大学は、学士課程の教育を受けるにふさわしい基礎学力・医学医療を学ぶ意欲・地域社会と人への関心・コミュニケーション能力・思考の柔軟性と論理性・積極的な行動力を備えた学生を受け入れます。

【医学部】

医学部は、北海道民の健康と医療を守り、地域に貢献できる医師及び国際的・先端的研究を通じて世界に貢献できる研究医を育てます。そのため、次のような資質を有する学生を求めます。

1. 命を尊ぶ心を持ち、病める人を救う情熱のある人
2. 周りの人への思いやりと奉仕の心、倫理観を持っている人
3. 良心と社会規範に従い、良識ある行動ができる人
4. 医師・研究医となるにふさわしいコミュニケーション能力、協調性及び想像力を持っている人
5. 地域社会への興味・関心を持ち、北海道に貢献する意志を持つ人
6. 国際的視野で考え行動し、科学的探究心と創造力を持って学習に取り組める人

○入学までに身につけておいてほしいこと

1. 高等学校で学ぶ諸教科に関する高い基礎学力
 - 1) 医学を学習するための基礎学力
生命科学としての医学を学習するに当たって、生物、化学、物理及び数学の基礎学力は必須です。さらに、医療と医学研究の場では、人との交流が基盤となります。それを支えるコミュニケーション能力を発揮するために、論理的に思考し、相手に伝えることのできる正確な日本語と国際的視野で考え行動するための英語の学力が重要です。
 - 2) 人類の文化や自然、社会に関する幅広い基礎知識
医学研究と医療の実践には、人文社会科学の視点から健康・疾病を理解することも必要です。そのために、自然科学のほか、人文社会科学など幅広い領域に関する基礎知識が不可欠です。
2. 自ら課題を探究し、問題を解決する学習習慣
医師には生涯にわたる自己研鑽が求められます。自ら課題を抽出し、問題点・疑問点を解決していく積極的な学習姿勢が必要です。

3. 自主的、協調的な態度と行動

チーム医療なしには医療は実践できません。医師は医療チームの一員として、他者と連携・協調して行動することが求められます。

4. 健康な生活を送るための基本的生活習慣

人々の健康を守り、病に立ち向かう医師となるための精神力と体力が必要です。まず自分の健康に心がけ、基本的生活習慣を身につけていることが不可欠です。

[保健医療学部]

保健医療学部は、人々が健康に暮らせる社会の実現をめざして、様々な立場や役割を担う他者との連携・協働のもとに地域の保健・医療・福祉の充実と発展のため、主体的に貢献できる看護師・保健師、理学療法士、作業療法士を育成します。そのため、次のような資質を有する学生を求めます。

1. 将来は、看護師・保健師、理学療法士、作業療法士として人々の健康と生活を支える役割を担いたいと考えている人
2. 地域社会への興味・関心を持ち、北海道の保健・医療・福祉に貢献する意志のある人
3. 良心と社会規範にしたがい、良識ある行動ができる人
4. 人々との交流を大切に、常に温かな配慮をもって他者と接することのできる人
5. 広く社会に目を向け、知的探求心をもって柔軟な発想で物ごとをとらえることのできる人
6. 人々や社会とのかかわりを通して自らの成長を願い、粘り強く物ごとに取り組むことのできる人

○入学までに身につけておいてほしいこと

1. 高等学校で学ぶ諸教科に関する高い基礎学力

1) 人類の文化や自然、社会に関する幅広い基礎知識

保健・医療・福祉は人間を対象に社会の中で営まれる実践です。したがって、文化や自然、社会に関する偏りのない基礎知識が不可欠です。

2) 人々との交流を深め、論理的に思考し、表現するための語学力

保健・医療・福祉の実践は人々との交流を基盤とします。したがって、まず、日本語で読み、書き、聞き、話すコミュニケーション力が重要です。また、それらは論理的に物ごとをとらえ、考える力につながります。高等学校までに学ぶ特定の外国語の基礎能力も身につけておく必要があります。

2. 他者との連携・協働により物ごとに取り組み成し遂げた経験

保健・医療・福祉の実践はチームで取り組みます。他者との連携・協働して何かに取り組んだ経験は専門的実践を学ぶ上での力となります。

3. 自らの疑問を解決し、知識を深めるための学習習慣

専門職には生涯にわたる自己研鑽が求められます。疑問を解決するために、また、知識を広げ深めるために、自ら進んで調べ学ぶ習慣を身につけておく必要があります。

4. 健康な生活を送るための基本的生活習慣

人々の健康と生活を守るためには、まず自分の健康に心がけ、しっかりとした基本的生活習慣を身につけていることが不可欠です。

I 募集人員・日程等

1 募集人員

学部・学科		合計	一般入試(前期日程)		推薦入試	
			一般枠※	北海道医療枠	地域枠	特別枠
医学部	医学科	110	20	55	20	15

※「北海道医療枠」合格者が先に募集人員(55名)に達した場合、募集・選考状況により、他の合格者は「一般枠」と「北海道医療枠」を合わせて20名となり、「一般枠」合格者が募集人員に満たない場合があります。

学部・学科		合計	一般入試(前期日程)	推薦入試
保健医療学部	看護学科	50	40	10
	理学療法学科	20	16	4
	作業療法学科	20	16	4
	計	90	72	18

2 日程

(1)出願日程

試験区分	医学部	保健医療学部
一般入試(前期日程)	平成29年1月23日(月)～	2月1日(水)
推薦入試	平成28年12月1日(木) ～12月5日(月)	平成28年11月1日(火) ～11月4日(金)

(2)本学試験日程

試験区分	医学部	保健医療学部
一般入試(前期日程)	平成29年2月25日(土) 2月26日(日)	平成29年2月25日(土)
推薦入試	平成29年2月1日(水)	平成28年11月26日(土)

(3)合格発表日

試験区分	医学部	保健医療学部
一般入試(前期日程)	平成29年3月7日(火)	
推薦入試	平成29年2月7日(火)	

※医学部推薦入試第1段階選抜合格発表 :平成29年1月10日(火)
保健医療学部推薦入試第1次選考合格発表:平成28年12月6日(火)

3 学生募集要項の配布日

試験区分	医学部	保健医療学部
一般入試(前期日程)	平成28年10月下旬(予定)	
推薦入試	平成28年10月下旬(予定)	平成28年9月下旬(予定)

Ⅱ 医学部 医学科 出願資格・選抜方法等

1 一般入試

医学部では、顕在化している医師不足に対して、北海道が設立した医科大学として道内で医学・医療に従事する医師を養成するために、「北海道医療枠」を設置しています。これにより一般入試は2種類の出願枠となります。

(1) 出願資格

ア 一般枠

次の各号のいずれかに該当し、かつ、平成29年度大学入学者選抜大学入試センター試験(以下「大学入試センター試験」という。)において、**本学が指定する教科・科目をすべて受験した者**

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成29年3月31日までにこれに該当する見込みの者

ただし、同条第7号の規定により出願を希望する者は、事前に資格審査を受けなければならないが、一般入試の受付開始日の5日前までに資格審査を申請する必要があります。

なお、詳細については、本学事務局学務課入試係に問い合わせてください。

イ 北海道医療枠

上記「ア 一般枠」に加え、次に該当する者

- ① 医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修(以下「初期臨床研修」という。)を修了後、**所定のプログラム(卒後の必修プログラム)に従事することを確約できる者**

いずれの出願枠も、出願者の出身地及び出身高等学校等所在地による制限はありません。

(2) 出願枠

ア 一般枠(募集人員 20名)(注)

- ① 入学後6年間の医学科教育カリキュラムを履修します。
- ② 一般枠には、修学資金貸与制度はありません。

イ 北海道医療枠(募集人員 55名)

- ① 入学後6年間の医学科教育カリキュラムは、一般入試「一般枠」、推薦入試「地域枠」・「特別枠」による入学者と同様です。
- ② 所定のプログラムとは、卒業後、札幌医科大学附属病院を含む臨床研修指定医療機関で、初期臨床研修修了後、札幌医科大学医学部又は附属病院の各診療科に所属し、7年間、札幌医科大学及び道内の医療機関において医学・医療に従事するものです。このプログラムでは、北海道の医学・医療において指導的・中核的役割を担える医師の育成を目指します。
- ③ 「北海道医療枠」には、修学資金貸与制度はありません。
- ④ 「北海道医療枠」を志望する者は、出願時に、一般入試の出願書類に加え、初期臨床研修修了後、**所定のプログラム(卒後の必修プログラム)に従事する旨の志願者及びその保護者による確約書**を提出する必要があります。

なお、この確約書の提出がない場合は、「北海道医療枠」での出願を受け付けません。

(3) 出願方法等

- ① 出願時に「一般枠」及び「北海道医療枠」のいずれかを選択して出願します。
- ② 合格者は、総合点の高い順に、「一般枠」及び「北海道医療枠」それぞれで決定します。
- ③ 一般入試の募集人員は、「一般枠」と「北海道医療枠」を合わせて75名です。

(注)「北海道医療枠」合格者が先に募集人員(55名)に達した場合、募集・選考状況により、他の合格者は「一般枠」と「北海道医療枠」を合わせて20名となり、「一般枠」合格者が募集人員に満たない場合があります。

(4) 入学者の選抜方法

次のとおり2段階に分けて行います。

ア 第1段階選抜

入学志願者が募集人員に対して本学が定める倍率(以下のとおり)を超えた場合、大学入試センター試験の成績により、原則として募集人員に以下の倍率を乗じた数の志願者を第1段階選抜の合格とします。(第1段階選抜を実施する場合の倍率)

学科	募集人員	倍率
医 学 科	75名	5倍

(注)第1段階選抜は、「一般枠」と「北海道医療枠」を一括して行います。

イ 第2段階選抜

次の項目の成績及び結果を総合して合格者を決定します。
なお、調査書は面接の際の資料とします。

日程	一般枠・北海道医療枠
前 期 日 程	・大学入試センター試験 ・第2次試験(個別学力検査・個人面接)

(注1)合格者は、総合点の高い順に、「一般枠」及び「北海道医療枠」それぞれで決定します。

(注2)一般入試の募集人員は、「北海道医療枠」と「一般枠」を合わせて75名です。

「北海道医療枠」合格者が先に募集人員(55名)に達した場合、募集・選考状況により、他の合格者は、「一般枠」と「北海道医療枠」を合わせて20名となり、「一般枠」合格者が募集人員に満たない場合があります。

(5) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

ア 一般枠・北海道医療枠(5教科7科目)

教科	科目	科目等の選択方法
国 語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記の7科目から1科目選択 (注1)
公 民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	
数 学	『数学Ⅰ・数学A』	必須
	『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	左記の3科目から1科目選択 (注2)
理 科	「物理」「化学」「生物」	左記の3科目から2科目選択
外 国 語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の5科目から1科目選択 (英語は、リスニングテストの成績も判定の対象とします。)

(注1)地理歴史・公民を指定した科目数以上受験した場合は、第1解答科目を合否判定の資料として用います。第1解答科目で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも、地理歴史・公民を受験しなかったものとみなします。

(注2)『簿記・会計』『情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限りません。

(6) 第2次試験の実施教科・科目等

ア 一般枠・北海道医療枠

日程	教科	科目	科目等の選択方法
前期日程	数 学	「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」 「数学Ⅲ」「数学A」 「数学B」 (注1)	必須
	理 科	「物理」「物理基礎」(注2)	左記3種類の組み合わせから2種類選択(必須)
		「化学」「化学基礎」(注3)	
		「生物」「生物基礎」(注4)	
外 国 語	『英語』 「コミュニケーション英語Ⅰ」 「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」 「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」	必須	
	面接(個人)	(注5)	必須

(注1)「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」は全範囲を出題範囲とします。
「数学B」は「数列」、「ベクトル」から出題します。

(注2)「物理」は「半導体中の電子のエネルギー帯」、「トランジスター」、「ダイオード」以外から出題します。
「物理基礎」は全範囲を出題範囲とします。

(注3)「化学」「化学基礎」は全範囲を出題範囲とします。

(注4)「生物」「生物基礎」は全範囲を出題範囲とします。

(注5)数学・理科・外国語・面接のうち、いずれか1教科でも受験しなかった者は、合格者にはなりません。
なお、理科は2科目の受験が必要です。

(7) 教科の配点

ア 第1段階選抜に用いる大学入試センター試験の教科の配点

(ア)一般枠・北海道医療枠

学科	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	計
医 学 科	200	100	200	200	200※	900

※英語の場合(筆記200点+リスニング50点)×0.8=200点

イ 第2段階選抜の配点

(ア)一般枠・北海道医療枠

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	計	総合点
前期日程	大学入試センター試験	150	50	150	200	150	—	700	1,400
	第2次試験	—	—	200	200	200	100	700	

(注)面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、総合点の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(8) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の対応が必要となることがありますので、必ず本学学務課入試係に電話等で問い合わせの上、平成28年12月15日(木)までに本学指定の健康診断書(問い合わせの後、送付します。)の提出により事前相談を行って下さい。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | |
|---|
| (ア) 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 |
| (イ) 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者 |
| (ウ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者 |
| (エ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者 |
| (オ) 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者 |
| (カ) 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者 |
| (キ) 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者 |

問い合わせ先

〒060-8556

札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111 (内線2183・2184)

2 推薦入試

(1) 出願資格

ア 地域枠

北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者のうち、最終学年を含む3年以上継続して道内に在住する者で、次のすべての要件に該当し、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者

なお、推薦できる人数は1つの高等学校又は中等教育学校につき2名以内とし、特別枠と重複して推薦を受けることはできません。

- ① 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の学習成績概評でA又はA段階に属する者で、人物、学力ともに優秀であり、将来、医学の分野において社会に貢献する意欲のある者
- ② 平成29年度大学入試センター試験において、本学が指定する**5教科7科目**を受験する者
- ③ 初期臨床研修修了後、**所定のプログラム※(卒後の必修プログラム)に従事することを確約できる者**
- ④ **合格した際に入学を確約できる者**

※「所定のプログラム」とは、卒業後、札幌医科大学附属病院を含む臨床研修指定医療機関で、初期臨床研修修了後、札幌医科大学医学部又は附属病院の各診療科に所属し、7年間、札幌医科大学及び道内の医療機関において医学・医療に従事するものです。

このプログラムでは、北海道の医学・医療において指導的・中核的役割を担える医師の育成を目指します。

イ 特別枠

北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を平成28年3月以降卒業又は平成29年3月卒業見込みの者のうち、最終学年を含む3年以上継続して道内に在住する者で、次のすべての要件に該当し、卒業又は卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者

なお、推薦できる人数は1つの高等学校又は中等教育学校につき2名以内とし、地域枠と重複して推薦を受けることはできません。

- ① 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の学習成績概評でA又はA段階に属する者で、人物、学力ともに優秀であり、将来、医学の分野において社会に貢献する意欲のある者
- ② 平成29年度大学入試センター試験において、本学が指定する**5教科7科目**を受験する者
- ③ **本学を卒業し、初期臨床研修修了後7年間のうち、北海道医師養成確保修学資金等貸付条例の規定に基づく5年間、北海道の地域医療に従事することを確約できる者**
- ④ **合格した際に入学を確約できる者**

(2) 出願枠

ア 地域枠(募集人員 20名)

- ① 出願に当たっては、初期臨床研修終了後、**所定のプログラム(卒後の必修プログラム)に従事する旨の志願者及びその保護者による確約書**並びに卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長から推薦書、推薦理由書等の提出が必要です。
- ② 入学後6年間の医学科教育カリキュラムは、一般入試「一般枠」・「北海道医療枠」、推薦入試「特別枠」による入学者と同様です。
- ③ 地域枠には、修学資金貸与制度はありません。

イ 特別枠(募集人員 15名)

- ① 出願に当たっては、志願者からの自己推薦書、卒業後一定期間北海道の地域医療に従事する旨の志願者及びその保護者による確約書(注)並びに卒業又は卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長から推薦書・推薦理由書等の提出が必要です。
 - ② 入学後6年間の医学科教育カリキュラムは、一般入試「一般枠」・「北海道医療枠」、推薦入試「地域枠」による入学者と同様です。
 - ③ 特別枠の入学者全員を対象として北海道医師養成確保修学資金(大学の入学科及び授業料に相当する額並びに月額12万円)が北海道から貸与されます。
- (注)修学資金の貸与にあたっては、本学を卒業し、初期臨床研修修了後7年間のうち、北海道医師養成確保修学資金等貸付条例の規定に基づく5年間を知事が指定する道内の公的医療機関に勤務することが義務づけられており、出願時に札幌医科大学長に対し、確約書の提出が必要です。

- ④ 勤務先の医療機関の範囲等、その他修学資金に関する問い合わせ先は次のとおりです。
 北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課
 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 電話:011-204-5214

(3) 出願方法等

- ① 地域枠と特別枠の併願はできません。
 ② 推薦入試の出願者は、本学の推薦入試に不合格であった場合に備えて、本学又は他の国公立大学の一般入試に出願することができます。
 なお、本学の一般入試に出願する場合は、推薦入試の出願とは別に出願しなければなりません。

(4) 入学者の選抜方法

ア 地域枠

入学者の選抜は、次のとおり2段階に分けて行います。

区分	選抜方法
第1段階選抜	入学志願者が募集人員の3倍を超えた場合、高等学校又は中等教育学校長から提出された調査書及び推薦理由書の内容に基づいて、原則として募集人員の3倍の数の志願者を第1段階選抜の合格者とします。
第2段階選抜	次の項目の結果を総合して合格者を決定します。 なお、推薦理由書は面接の際の資料とします。 ・大学入試センター試験(選抜の対象にするか否かの判定のみ) ・第2次試験(総合問題・個人面接) ・調査書の内容

イ 特別枠

入学者の選抜は、次のとおり2段階に分けて行います。

区分	選抜方法
第1段階選抜	入学志願者が募集人員の3倍を超えた場合、高等学校又は中等教育学校長から提出された調査書、推薦理由書及び自己推薦書の内容に基づいて、原則として募集人員の3倍の数の志願者を第1段階選抜の合格者とします。
第2段階選抜	次の項目の結果を総合して合格者を決定します。 なお、推薦理由書は面接の際の資料とします。 ・大学入試センター試験(選抜の対象にするか否かの判定のみ) ・第2次試験(総合問題・個人及び集団面接) ・調査書・自己推薦書の内容

(5) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

ア 地域枠・特別枠(5教科7科目)

教科	科目	科目等の選択方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記7科目から1科目選択 (注)
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	
数学	『数学Ⅰ・数学A』	必須
	『数学Ⅱ・数学B』	必須
理科	「物理」「化学」「生物」	左記3科目から2科目選択
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記5科目から1科目選択 (英語は、リスニングテストの成績も判定の対象とします。)

(注) 指定した科目数以上受験した場合は、第1解答科目を合否判定の資料として用います。ただし、第1解答科目で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも、合格者にはなりません。

(6) 第2次試験の実施教科・科目等

ア 地域枠・特別枠

教科・科目等	科目等の選択方法
総合問題	必須
面接 (注)	必須

(注) 総合問題を受験しなかった者は、面接試験を受験できません。

(7) 教科の配点

ア 地域枠

教科	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	計
大学入試センター試験	200	100	200	200	200※	900

※英語の場合(筆記200点+リスニング50点)×0.8=200点

(注) 大学入試センター試験の成績は、選抜の対象にするか否かの判定にのみ用いるものとし、総配点900点中675点以上の者を入学候補者として選考の対象とします。

教科	総合問題	面接	調査書	計
第2次試験	400	400	200	1,000

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

イ 特別枠

教科	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	計
大学入試センター試験	200	100	200	200	200※	900

※英語の場合(筆記200点+リスニング50点)×0.8=200点

(注) 大学入試センター試験の成績は、選抜の対象にするか否かの判定にのみ用いるものとし、総配点900点中675点以上の者を入学候補者として選考の対象とします。

教科	総合問題	面接	調査書・自己推薦書	計
第2次試験	500	400	300	1,200

(注) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第2次試験の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(8) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の対応が必要となることがありますので、必ず本学学務課入試係に電話等で問い合わせの上、平成28年10月31日(月)までに本学指定の健康診断書(問い合わせの後、送付します。)の提出により事前相談を行って下さい。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | |
|--|
| <p>(ア) 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者</p> <p>(イ) 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者</p> <p>(ウ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者</p> <p>(エ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者</p> <p>(オ) 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者</p> <p>(カ) 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者</p> <p>(キ) 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者</p> |
|--|

問い合わせ先

〒060-8556

札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係

電話011-611-2111 (内線2183・2184)

Ⅲ 保健医療学部 看護学科 出願資格・選抜方法等

1 一般入試(募集人員 40名)

(1) 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ、平成29年度大学入学者選抜大学入試センター試験(以下「大学入試センター試験」という。)において、**本学が指定する教科・科目をすべて受験した者**

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成29年3月31日までにこれに該当する見込みの者

ただし、同条第7号の規定により出願を希望する者は、事前に資格審査を受けなければならない、一般入試の受付開始日の5日前までに資格審査を申請する必要があります。

なお、詳細については、本学事務局学務課入試係にお問い合わせください。

(2) 入学者の選抜方法

次のとおり2段階に分けて行います。

ア 第1段階選抜

入学志願者が募集人員に対して本学が定める倍率(以下のとおり)を超えた場合、大学入試センター試験の成績により、原則として募集人員に以下の倍率を乗じた数の志願者を第1段階選抜の合格とします。

(第1段階選抜を実施する場合の倍率)

学科	募集人員	倍率
看護学科	40名	3倍

イ 第2段階選抜

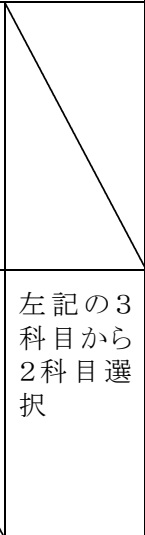
次の項目の成績及び結果を総合して合格者を決定します。

なお、調査書は面接の際の資料とします。

日程	看護学科
前期日程	・大学入試センター試験 ・第2次試験(個人及び集団面接)

(3) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

ア 看護学科 5～6教科7～8科目

教科	科目	科目等の選択方法			
国 語	『国語』	必須			
数 学	「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	左記の2科目から1科目選択			
	「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	左記の4科目から1科目選択 (注3)			
外 国 語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の5科目から1科目選択 (英語は、リスニングテストの成績も判定の対象とします。)			
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記の7科目から 1科目選択		左記の7科目から 2科目選択 (同一科目名を含む 選択不可)	
公 民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』				
理 科	「物理」「化学」「生物」	左記の3 科目から 2科目選 択	左記の3 科目から 1科目選 択(同一 科目名を 含む選択 不可)	左記の3 科目から 1科目選 択	
	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」		左記の3 科目から 2科目選 択(同一 科目名を 含む選択 不可)		

(注1)
(注2)

(注1) 地理歴史・公民及び理科については選択方法が4つあります。

(注2) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民の第1解答科目、残りの科目(理科の「基礎を付した2科目」を含む)のうち得点の高い科目2科目を合否判定の資料として用います。

ただし、理科の「基礎を付さない科目」において、第1解答科目で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも「基礎を付さない科目」を受験しなかったものとみなします。

また、理科の「基礎を付した科目」で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、「基礎を付した科目」を受験しなかったものとみなします。

(注3) 『簿記・会計』『情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限ります。

(4) 第2次試験の実施教科・科目等

日程	教科・科目等	科目等の選択方法
前期日程	面接(個人及び集団)	必須

(注)面接試験を受験しなかった場合は、合格者にはなりません。

(5) 第1段階選抜に用いる大学入試センター試験の教科の配点

学科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	計	
看護学科	200	100	100	100	200	200※	900

※英語の場合(筆記200点+リスニング50点)×0.8=200点

(6) 第2段階選抜の配点

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	面接	計	総合点	
前期日程	大学入試センター試験	200	100	100	100	200	200	—	900	1,100
	第2次試験	—	—	—	—	—	200	200		

(注)面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、総合点の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(7) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の対応が必要となることがありますので、必ず本学学務課入試係に電話等で問い合わせの上、平成28年12月15日(木)までに本学指定の健康診断書(問い合わせの後、送付します。)の提出により事前相談を行って下さい。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | |
|---|
| (ア) 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 |
| (イ) 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者 |
| (ウ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者 |
| (エ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者 |
| (オ) 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者 |
| (カ) 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者 |
| (キ) 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者 |

問い合わせ先

〒060-8556

札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111 (内線2183・2184)

2 推薦入試(募集人員 10名)

(1) 出願資格

北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者のうち、最終学年を含む3年以上継続して道内に在住する者で、次のすべての要件に該当し、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者

なお、推薦できる人数は、1つの高等学校又は中等教育学校につき1名とします。

- ① 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の評定平均値で4.0以上の者で、人物、学力ともに優秀であり、将来、保健医療の分野において社会に貢献する意欲のある者
- ② 平成29年度大学入試センター試験において、本学が指定する教科・科目を受験する者
- ③ **合格した際に入学を確約できる者**

(2) 出願方法等

- ① 出願に当たっては、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長から推薦書、推薦理由書等の提出が必要です。
- ② 推薦入試の出願者は、本学の推薦入試に不合格であった場合に備えて、本学又は他の国公立大学の一般入試に出願することができます。
なお、本学の一般入試に出願する場合は、推薦入試の出願とは別に出願しなければなりません。
- ③ 入学後4年間の教育カリキュラムは一般入試による入学者と同様です。
- ④ 推薦入試には、修学資金貸与制度はありません。

(3) 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、次のとおり行います。

区分	選抜方法
第1次選考	小論文及び面接により募集人員数を合格とします。 なお、高等学校又は中等教育学校長から提出された調査書、推薦理由書及び志願理由書は、面接の際の資料とします。
第2次選考	大学入試センター試験の合計点が全国平均点以上である者を合格者とします。

(4) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

ア 看護学科 3教科3～4科目

教科	科目	科目等の選択方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記の15科目から1科目選択 ただし、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」については2科目を選択する。 (注)
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	
数学	「数学I」『数学I・数学A』	
理科	「物理」「化学」「生物」 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」	
外国語	『英語』 (英語は、リスニングテストの成績も判定の対象とします。)	必須

(注) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民及び理科の第1解答科目、理科の「基礎を付した2科目」並びに数学の解答科目のうち、全国平均点に対する得点の差が最も大きい科目を用いて合否判定を行います。

(5) 本学試験の実施教科・科目等

ア 第1次選考

教科・科目等	科目等の選択方法
小論文	必須
面接(個人) (注)	必須

(注) 小論文を受験しなかった場合は、面接試験を受験できません。

(6) 教科の配点

教科	小論文	面接	計
第1次選考	100	100	200

(注1) 第1次選考合格者のうち、大学入試センター試験において本学が指定する教科・科目の合計点が全国平均点以上である者を第2次選考の合格者とします。

(注2) 面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第1次選考の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(7) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の対応が必要となることがありますので、必ず本学学務課入試係に電話等で問い合わせの上、平成28年10月4日(火)までに本学指定の健康診断書(問い合わせの後、送付します。)の提出により事前相談を行って下さい。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | |
|---|
| (ア) 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 |
| (イ) 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者 |
| (ウ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者 |
| (エ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者 |
| (オ) 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者 |
| (カ) 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者 |
| (キ) 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者 |

問い合わせ先

〒060-8556

札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係

電話011-611-2111 (内線2183・2184)

IV 保健医療学部 理学療法学科・作業療法学科 出願資格・選抜方法等

1 一般入試(募集人員 学科毎に16名)

(1) 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ、平成29年度大学入学者選抜大学入試センター試験(以下「大学入試センター試験」という。)において、**本学が指定する教科・科目をすべて受験した者**

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成29年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成29年3月31日までにこれに該当する見込みの者

ただし、同条第7号の規定により出願を希望する者は、事前に資格審査を受けなければならない、一般入試の受付開始日の5日前までに資格審査を申請する必要があります。

なお、詳細については、本学事務局学務課入試係にお問い合わせください。

(2) 入学者の選抜方法

次のとおり2段階に分けて行います。

ア 第1段階選抜

入学志願者が募集人員に対して本学が定める倍率(以下のとおり)を超えた場合、大学入試センター試験の成績により、原則として各学科の募集人員に以下の倍率を乗じた数の志願者を第1段階選抜の合格とします。

(第1段階選抜を実施する場合の倍率)

学科	募集人員	倍率
理学療法学科	16名	3倍
作業療法学科	16名	3倍

イ 第2段階選抜

次の項目の成績及び結果を総合して合格者を決定します。

なお、調査書は面接の際の資料とします。

日程	理学療法学科・作業療法学科
前期日程	・大学入試センター試験 ・第2次試験(個人及び集団面接)

(3) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

ア 理学療法学科 5教科7～8科目

教科	科目	科目等の選択方法		
国語	『国語』	必須		
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」	左記の2科目から1科目選択		
	「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」 『簿記・会計』『情報関係基礎』	左記の4科目から1科目選択 (注3)		
外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の5科目から1科目選択 (英語は、リスニングテストの成績も判定の対象とします。)		
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記の7科目から1科目選択 (注1)		
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』			
理科	「物理」「化学」「生物」	左記の3科目から 2科目選択	左記の3科目から 1科目選択 (同一科目名を含む選 択不可)	} (注2)
	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」		左記の3科目から2科目 選択 (同一科目名を含む選 択不可)	

(注1) 地理歴史・公民は、第1解答科目を合否判定の資料として用います。

(注2) 理科については選択方法が2つあります。

理科の「基礎を付さない科目」において、第1解答科目で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも「基礎を付さない科目」を受験しなかったものとみなします。

また、理科の「基礎を付した科目」で本学が指定している科目を受験しなかった場合には「基礎を付した科目」を受験しなかったものとみなします。

(注3) 『簿記・会計』『情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限りません。

イ 作業療法学科 5～6教科7～8科目

教科	科目	科目等の選択方法		
国 語	『国語』	必須		
数 学	「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	左記の2科目から1科目選択		
	「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』『情報関係基礎』	左記の4科目から1科目選択 (注3)		
外 国 語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	左記の5科目から1科目選択 (英語は、リスニングテストの成績も判定の対象とします。)		
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」	左記の7科目から 1科目選択		左記の7科目から 2科目選択 (同一科目名を 含む選択不可)
公 民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』			
理 科	「物理」「化学」「生物」	左記の 3科目から 2科目選択	左記の 3科目から 1科目選択 (同一科目名 を含む 選択不可)	左記の3科目から 1科目選択
	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」		左記の 3科目から 2科目選択 (同一科目名 を含む 選択不可)	

(注1)
(注2)

(注1) 地理歴史・公民及び理科については選択方法が3つあります。

(注2) 指定した科目数以上受験した場合は、地理歴史・公民の第1解答科目、残りの科目(理科の「基礎を付した2科目」を含む)のうち、上記に示した3つの選択方法のいずれかを満たす組み合わせから得点の高い科目2科目を合否判定の資料として用います。

ただし、理科の「基礎を付さない科目」において、第1解答科目で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、たとえ第2解答科目で本学が指定する科目を受験した場合でも「基礎を付さない科目」を受験しなかったものとみなします。

また、理科の「基礎を付した科目」で本学が指定している科目を受験しなかった場合には、「基礎を付した科目」を受験しなかったものとみなします。

(注3)『簿記・会計』『情報関係基礎』を選択することができる者は、高等学校又は中等教育学校でこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了(見込み)者に限りません。

(4) 第2次試験の実施教科・科目等

日程	教科・科目等	科目等の選択方法
前 期 日 程	面接(個人及び集団)	必須

(注) 面接試験を受験しなかった場合は、合格者にはなりません。

(5) 教科の配点

ア 第1段階選抜に用いる大学入試センター試験の教科の配点

学科	国語	地理歴史・公民		理科	数学	外国語	計
理学療法学科	200	100		200	200	200※	900
作業療法学科	200	100	100	100	200	200※	900

※英語の場合(筆記200点+リスニング50点)×0.8=200点

(6) 第2段階選抜の配点

ア 理学療法学科

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	面接	計	総合点
前期日程	大学入試センター試験	200	100	200	200	200	—	900	1,100
	第2次試験	—	—	—	—	—	200	200	

(注)面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、総合点の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

イ 作業療法学科

日程	試験区分	国語	地理歴史・公民		理科	数学	外国語	面接	計	総合点
前期日程	大学入試センター試験	200	100	100	100	200	200	—	900	1,100
	第2次試験	—	—		—	—	—	200	200	

(注)面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、総合点の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(7) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の対応が必要となることがありますので、必ず本学学務課入試係に電話等で問い合わせの上、平成28年12月15日(木)までに本学指定の健康診断書(問い合わせの後、送付します。)の提出により事前相談を行って下さい。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | |
|---|
| <p>(ア) 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者</p> <p>(イ) 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者</p> <p>(ウ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者</p> <p>(エ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者</p> <p>(オ) 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者</p> <p>(カ) 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者</p> <p>(キ) 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者</p> |
|---|

問い合わせ先

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111 (内線2183・2184)

2 推薦入試(募集人員 学科毎に4名)

(1) 出願資格

北海道内に所在する高等学校又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者のうち、最終学年を含む3年以上継続して道内に在住する者で、次のすべての要件に該当し、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長が推薦する者

なお、推薦できる人数は、1つの高等学校又は中等教育学校につき1学科1名とします。

- ① 高等学校又は中等教育学校における調査書の成績が、全体の評定平均値で4.0以上の者で、人物、学力ともに優秀であり、将来、保健医療の分野において社会に貢献する意欲のある者
- ② 平成29年度大学入試センター試験において、本学が指定する教科・科目を受験する者
- ③ **合格した際に入学を確約できる者**

(2) 出願方法等

- ① 出願に当たっては、卒業見込みの高等学校又は中等教育学校の学校長から推薦書、推薦理由書等の提出が必要です。
- ② 推薦入試の出願者は、本学の推薦入試に不合格であった場合に備えて、本学又は他の国公立大学の一般入試に出願することができます。
なお、本学の一般入試に出願する場合は、推薦入試の出願とは別に出願しなければなりません。
- ③ 入学後4年間の教育カリキュラムは一般入試による入学者と同様です。
- ④ 推薦入試には、修学資金貸与制度はありません。

(3) 入学者の選抜方法

入学者の選抜は、次のとおり行います。

区分	選抜方法
第1次選考	小論文及び面接により募集人員数を合格とします。 なお、高等学校又は中等教育学校長から提出された調査書、推薦理由書及び志願理由書は、面接の際の資料とします。
第2次選考	大学入試センター試験の合計点が全国平均点以上である者を合格者とします。

(4) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

ア 理学療法学科 2教科3~4科目、作業療法学科 3教科3科目

教科	科目	科目等の選択方法		
		理学療法学科	作業療法学科	
国語	『国語』	/	必須	
地理歴史	「世界史B」「日本史B」「地理B」		/	/
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」 『倫理、政治・経済』			
数学	「数学I」 『数学I・数学A』	/	左記2科目から 1科目選択	
理科	「物理」「化学」「生物」		「物理」必須 「化学」「生物」から 1科目選択	/
	「化学基礎」「生物基礎」	「物理」	「化学基礎」 「生物基礎」	
外国語	『英語』(英語は、リスニングテストの成績も判定の対象とします。)	必須	必須	

(注) 理学療法学科においては理科の選択方法は2つあります。

(5) 本学試験の実施教科・科目等

ア 第1次選考

教科・科目等	科目等の選択方法
小論文	必須
面接（個人）（注）	必須

(注)小論文を受験しなかった場合は、面接試験を受験できません。

(6) 教科の配点

教科	小論文	面接	計
第1次選考	100	100	200

(注1)第1次選考合格者のうち、大学入試センター試験において本学が指定する教科・科目の合計点が全国平均点以上である者を第2次選考の合格者とします。

(注2)面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、第1次選考の成績に関わらず、不合格になる場合があります。

(7) 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の対応が必要となることがありますので、必ず本学学務課入試係に電話等で問い合わせの上、平成28年10月4日(火)までに本学指定の健康診断書(問い合わせの後、送付します。)の提出により事前相談を行って下さい。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- | |
|---|
| (ア) 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 |
| (イ) 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者 |
| (ウ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者 |
| (エ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者 |
| (オ) 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者 |
| (カ) 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者 |
| (キ) 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者 |

問い合わせ先

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111 (内線2183・2184)

V 学生募集要項の請求先及び請求方法

1 本学で配布(推薦入試学生募集要項を除く)

- 「I 募集人員・日程等(p3)」記載の配布日から願書受付終了日までの間、次により配布します。
- ・学務課入試係 8:45~17:30(土・日・祝日を除く。)
 - ・守衛室(東棟、基礎医学研究棟) 24時間(毎日)

2 テレメール進学サイトから請求(推薦入試学生募集要項を除く)

(1) インターネット(PC・スマホ・ケータイ)または自動音声応答電話で請求

インターネットの場合	自動音声応答電話の場合
 http://telemail.jp/ (PC・スマホ・ケータイ共通)  バーコードを読み取り、アクセスした場合は資料請求番号の入力は不要です。	IP電話 050-8601-0101(24時間受付) * 一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。 * 住所氏名等の登録時はゆっくり・はっきりとお話し下さい。登録された音声の不鮮明な場合は資料をお届けできないことがあります。

資料請求番号(6桁)をプッシュ又は入力して、あとはガイダンスに従ってください。

資料名	資料請求番号	料金(送料含)	発送開始日
大学案内のみ	560102	300円	6月上旬(予定)
一般入試学生募集要項のみ	580102	215円	11月上旬(予定)
大学案内+一般入試学生募集要項	540102	300円	11月上旬(予定)

※請求から2~3日後に資料が届きます。ただし、受付時間や地域、配達事情によっては4日以上かかる場合もあります。

5日以上経っても届かない場合はテレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。なお、発送開始日以前の請求分は発送開始日に一斉に発送されます。

※料金のお支払いは資料到着後の後払いです。お届けする資料に同封の料金支払い用紙をご確認の上、資料到着後一週間以内に表示料金をお支払いください。なお、支払い手数料が別途必要です(コンビニ支払いは86円。ゆうちょ銀行・郵便局のATM扱いは80円、窓口扱いは130円。ケータイ払いは50円。クレジットカード払いは50円)。また、複数資料の料金をまとめて支払うこともできます。

※資料請求終了時および受付確認メール内で告知される10桁の「受付番号」は、資料到着まで保管しておいてください。

※一般入試募集要項は、自動音声応答電話による請求を除き、通常受付終了後も引き続きテレメール速達対応(レターパック)で請求受付を行います。速達対応の料金は、上記2(1)に記載の料金とは異なりますので、テレメールの資料請求画面でご確認ください。

【通常受付期限】平成29年1月26日(木)正午まで 【速達対応受付期限】平成29年1月29日(日)正午まで

■ 上記「テレメール」についてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター IP電話 050-8601-0102 (9:30~18:00)
--

3 大学情報センター「モバっちょ」へ請求(推薦入試学生募集要項を除く)

(1) スマホ・携帯電話を利用する場合

スマホ・携帯電話でバーコードを読みとり、大学情報センター「モバっちょ」へアクセスし、申込みをして下さい。



※料金は、送料・手数料込みです。

大学案内 :250円

一般入試募集要項 :250円

大学案内＋一般入試募集要項:350円

※資料請求料金を携帯電話の通話料と一緒に支払って頂けます。

(2) パソコンの場合

インターネットで、<http://djcm-b.jp/sapmed3/>へアクセスし、申込みをして下さい。

※料金は、送料・手数料込みです。

大学案内 :250円

一般入試募集要項 :250円

大学案内＋一般入試募集要項:350円

※資料請求料金の支払いは、クレジットカード決済のみとなります。

■ 上記「モバっちょ」についてのお問い合わせ先

大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター TEL 050-3540-5005(平日10:00～18:00)
--

4 卒業又は卒業見込みの高等学校等で配布

推薦入試学生募集要項については、卒業又は卒業見込みの高等学校等を経由した配布となります。

VI 私費外国人留学生入試

1 募集人員

医学部 若干名
保健医療学部 若干名

2 出願資格

次のすべての事項に該当する者

- (1) 日本国籍を有しない者(日本国の永住許可を得ている者は含まない)
- (2) 次の各号のいずれかに該当する者
 - ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成29年3月31日までに修了見込みの者(外国の学校において、最終学年を含む2年以上継続して在学したこと)
 - イ アに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - ウ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格又はフランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格のいずれかを取得した者で、平成29年3月31日までに18歳に達する者
- (3) 留学生の学費と一身上の責任を負うことの出来る、日本国内に居住している身元保証人を有する者
- (4) 独立行政法人日本学生支援機構が実施している日本留学試験(平成27年6月～平成28年11月実施分)を受験し、次の別表の要件に該当する者
なお、出題言語(日本語又は英語)は、自由選択とします。

(別表)

学部・学科		日本留学試験の受験科目		
医学部	医学科	日本語 読解、聴解・聴読解 記述	200点以上 25点以上	数学(コース2) 120点以上 理科(2科目自由選択) 120点以上
保健医療学部	看護学科	日本語		数学 (コース1又は コース2) 120点以上 理科(2科目自由選択) 120点以上
	理学療法学科	読解、聴解・聴読解	200点以上	
	作業療法学科	記述	25点以上	

(不明な点があれば、本学にお問い合わせください。)

3 入学者の選抜方法

次の項目の結果を総合して合格者を決定します。

学部	選抜方法
医学部	<ul style="list-style-type: none"> ・日本留学試験の成績 ・本学が行う一般入試第2次試験(個別学力検査・面接) ・出願書類の審査
保健医療学部	<ul style="list-style-type: none"> ・日本留学試験の成績 ・面接 ・出願書類の審査

(注)面接により医療人となるための適性を欠くと判断された場合は、成績に関わらず、不合格になる場合があります。

4 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学への入学志願者で、次表に該当する場合(学校教育法施行令第22条の3に準拠)は、受験上及び修学上の対応が必要となることがありますので、必ず本学学務課入試係に電話等で問い合わせの上、平成28年12月15日(木)までに本学指定の健康診断書(問い合わせの後、送付します。)の提出により事前相談を行って下さい。

必要に応じ、本学において、原則入学志願者及び保護者、又はその立場を代弁しうる者等との面談を行います。

- (ア) 両眼の矯正視力が0.3未満の者又は視力以外の視機能障害が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者
- (イ) 両耳の聴力レベルが60デシベル以上の者のうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度の者
- (ウ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、立位もしくは座位の保持又は歩行することが不可能又は困難な者
- (エ) 肢体(上肢・体幹・下肢)不自由の状態により、筆記又は実験・実習をすることが不可能又は困難な者
- (オ) 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
- (カ) 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度の者
- (キ) 上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とする程度の機能障害を有する者

問い合わせ先

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係 電話011-611-2111 (内線2183・2184)

5 日程

項目	医学部・保健医療学部
学生募集要項配布開始	平成28年10月下旬(予定)
出願日	平成29年1月23日(月)～2月1日(水)
試験日	平成29年2月25日(土)
合格発表日	平成29年3月7日(火)

6 学生募集要項の請求先及び請求方法

(1) 本学で配布

上記の学生募集要項配布開始日から願書受付終了日までの間、次により配布します。

・学務課入試係 8:45～17:30(土・日・祝日を除く。)

(2) 郵便による請求

請求用封筒の表に「私費外国人留学生入試 学生募集要項請求」と朱書きし、返信用封筒同封の上請求してください。

また、大学案内も希望する場合は、「大学案内請求」と、併記してください。

返信用封筒は、

・角形2号(A4判の冊子が折らずに入る大きさ)とし、表面に請求者の住所、氏名、郵便番号を明記してください。

・募集要項のみの場合は**140円**、大学案内も希望の場合は**400円**分の切手を貼ってください。

・返信先が外国の場合は、航空便500g料金相当の国際返信切手券を同封してください。

問い合わせ先

〒060-8556

札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学事務局学務課入試係

電話011-611-2111(内線2183・2184)

8:45～17:30(土・日・祝日を除く。)

*問い合わせは、やむを得ない場合を除き志願者本人が行ってください。